

2012年 FIDIC-AJCE 共催セミナー
コンサルタントの国際展開
~国際コンサルティング・エンジニア連盟 (FIDIC) 会長と共に考える~

技術研修委員会

日時: 2012(平成24)年5月8日(火)13:30 ~17:00
会場: ル・ポール麹町 ロイヤルクリスタル
参加人数: 約140名



はじめに

国際コンサルティング・エンジニア連盟 (FIDIC) の理事会が東京で開かれることに合わせ、連盟の会長、専務理事を迎え、5月8日(火)に FIDIC との共催セミナー「コンサルタントの国際展開~国際コンサルティング・エンジニア連盟 (FIDIC) 会長と共に考える~」を開いた。昨今、世界が直面する人口の増加、水やエネルギーの確保、都市化、気候変動等といったグローバルな問題は世界各国で社会資本の整備を手掛けるコンサルタント・エンジニア (CE) の業容に直結しており、CE にはこれまで以上に幅広く、複雑な技能と役割が求められている。本セミナーでは世界の中での我が国 CE の位置づけを再度確認し、今後益々世界に貢献するために何が必要なのか探るべく、官、民、協会それぞれの第一人者より講演を頂いた。

講演1「FIDIC 創立100周年を迎えて FIDIC ビジョンとミッション」 Geoff French 氏
はじめに、Geoff French FIDIC 会長より FIDIC の理

念、目的、歴史等についてご説明頂いた。この中で FIDIC が2013年に設立100周年を迎え、この年バルセロナで開かれる FIDIC 大会において祝賀会が執り行われることが紹介された。当初、3カ国から始まった FIDIC は現在では90カ国、6万社、150万人の CE を擁するまでに成長している。

続いて、FIDIC のビジョン、ミッション、目的が近年、再定義され、新しいビジョンには持続可能な発展に寄与すること、ミッションには幅広いステークホルダーを巻き込むことが強調されている旨、説明された。FIDIC の掲げる8つの目標についてもそれぞれ紹介され、この中で公正性を確保するには汚職の発生を未然に防止する視点が重要であり、このためのシステム整備が求められていること、CE の地位を高めていくことが優秀な人材を確保する上でも重要であること、契約約款の改善、強化に向けた継続的努力が欠かせないことが挙げられた。



Geoff French 氏
FIDIC 会長 URS-Scott Wilson 顧問

講演2「コンサルティング・エンジニア産業発展に向けた FIDIC の取り組み」 Enrico Vink 氏
続いて、Enrico Vink FIDIC 専務理事より FIDIC

の組織構造や出版物、具体的な活動や FIDIC 大会等について、詳細に説明して頂いた。

冒頭、Vink 理事はインフラ向け投資が多くの国で GDP の 10% を占めることを挙げ、インフラの整備を担う CE 産業と優れた CE が各国の経済成長を支えている、とその社会的意義を強調した。

その後、FIDIC が過去 100 年の間、一貫して品質、公正性、持続可能性を重視していること、書籍、ガイドダンス、国際会議等の提供を通じて専門的知見と経験の共有を図ってきたこと、ASPAC (FIDIC Asia-Pacific Member Associations アジア太平洋地域会員協会連合) を始めとする地域レベルのグループ組織が域内のネットワーキングと意見・情報交換の場として機能していること等が紹介された。また、2012 年 9 月に「グリーン調達」をテーマに韓国 (ソウル) で開催される FIDIC 大会へ日本から積極的に参加するよう、呼びかけられた。CE に対しては、変化し続ける社会のニーズを適切に捉え、対応することが重要との認識が示された。



Enrico Vink 氏
FIDIC 専務理事

講演 3 「官民連携による海外インフラプロジェクトの推進」 橋場 克司氏

橋場国土交通省技術参事官からは、冒頭、2012 年度の我が国の ODA 予算額 (一般会計 / 5,600 億円) がピークだった 1997 年度 (1.17 兆円) の半分に満たない等、ODA が縮小傾向にある一方、この間、アジアでは経済成長が進み、社会資本の整備がこれに追いつ

かない状態が続いている現状が伝えられた。

続いて、今後の国際展開の方向性として、我が国が持つ優れた技術の売り込み、パッケージ化¹、官民連携 (PPP) が挙げられ、国土交通省としての 3 つの基本方針として、「拡大から集約へ」、「官から民へ」、「国内前提から海外展開へ」が示された。同省が案件形成段階では政策協議、受注獲得段階ではトップセールス、事業実施段階ではホットライン (トラブル相談窓口) の設置等を通じて本邦企業の海外展開を後押ししている他、資金調達や組織・体制の強化にも取り組んでいること、道路、水分野においては「海外道路 PPP 協議会」と「海外水インフラ PPP 協議会」を通じて官民の情報共有、意見交換の場を提供していることが報告された。CE に向けてはプロジェクトの立ち上げ段階から積極的に関与するよう、促された。



橋場 克司氏
国土交通省 大臣官房技術参事官

講演 4 「ODA 事業と FIDIC / コンサルタントへの期待」 三浦 和紀氏

国際協力機構 (JICA) の三浦氏には有償資金協力において JICA が CE と FIDIC に期待する事項について説明して頂いた。始めに、ODA ローンの借入国、規模と金額の変遷、対象地域・分野に関し概説して頂いた後、FIDIC 標準契約約款の JICA 案件での活用や

¹パッケージ化には、a. 複数のプロジェクトを組み合わせる形、b. プロジェクトの構想・計画段階から管理・運営段階までをまとめて手掛ける形、c. ハード面だけでなく、ソフト面の支援も併せて実施する形がある。

Dispute Board (紛争裁定委員会) の促進等において JICA と FIDIC が協力関係にあることが紹介された。

三浦氏からは、CE は途上国の良きパートナーとして契約を適切に管理してほしいとの要望がなされた。また、JICA 案件においてデータ不足や片務契約、FIDIC 約款の下で CE が行う決定 (determination) を巡ってトラブルが生じていることを挙げ、その原因のうち CE に由来するものとして、FIDIC 契約約款に関する CE の理解不足などが挙げられた。

一方、FIDIC に対しては幅広いステークホルダーの人材育成に向けたさらなる取り組み、契約約款の継続的改善、発注者と CE、双方の視点をバランスよく取り入れた調査の実施とその結果の共有が求められた。



三浦 和紀 氏
JICA 資金協力支援部 部長

講演 5「わが国コンサルタント発展の歴史と国際展開」 廣谷 彰彦氏

最後に、FIDIC 理事であり、本邦 CE 企業経営者でもある廣谷氏より、我が国における CE の歴史と今後、本邦企業が海外で成功する上で必要な覚悟と行動について論じて頂いた。

廣谷氏は、海外で CE が発注者、請負者とは独立した中立的な第三者としての立場にある一方、我が国では戦前まで公共事業が官主体で進められ、その後も発注者の「黒子」としての役割に留まってきたため、現在も発注者に依存する体質から脱していないのではないかと指摘。その結果、1995年に肩を並べていた日本と世界のトップ CE 企業の売上高は現在、8倍にま

で広がっていると。また、日本における発注者との関係が著作権や瑕疵担保責任の問題を招いているのではないかと指摘した。

その上で、我が国の CE はプロジェクトの企画から計画、調査、設計、工事監理まで関わること、及び海外人材を育成することが重要との認識を示した。要素技術でしのぎを削っている現状を打破し、プログラムマネジメントにまで踏み込んで業務を展開する必要があり、そのためにこれまでの事業領域、顧客から脱却する必要があると結論付けた。



廣谷 彰彦氏
FIDIC 理事
(株)オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役会長

おわりに

本セミナーでは国際的な CE 産業のリーダーとして業界を牽引する FIDIC の会長と専務理事に参加頂くことでグローバルスタンダードに照らして我が国 CE 産業の現状を振り返り、今後の国際展開に向けた方向性を示すことができた。この中で、世界に広がるビジネスチャンスと市場の動向、国内から得られる支援と共に、我が国の CE が世界の変化に対応しきれていない現実も明らかになった。本セミナーを通じて得られた知見が海外展開を目指す参加各社の一助となれば幸いである。

以上